

駿河 D 遺跡

—2次調査—

福岡県春日市春日原北町所在の遺跡

春日市文化財調査報告書 第71集

2014

春日市教育委員会

序

本市の北部から中央にかけての一帯には、中国の史書に記された奴国(ぬくに)の王都であったと推測される須玖遺跡群が所在しています。須玖遺跡群からは、弥生時代の王墓や青銅器生産に関連する多くの遺物が出土しており、発掘調査の成果からも奴国(ぬくに)の王都であったことを知ることができます。

一方、福岡市や大野城市と接する市の東部に関しては、駿河A遺跡、原町遺跡のように弥生時代のすばらしい遺跡も確認されていますが、主体になるのは古代の遺跡であり、埋蔵文化財の内容が北部や中央部と異なる様相を示しています。

ここに報告いたします駿河D遺跡2次調査は、市域の西部に位置する古代の遺跡です。本遺跡一帯は、現在は宅地化が進んでおり、地形の起伏はさほど見ることはできませんが、今回の発掘調査や試掘調査の結果から微高地の高まりが幾つかあり、そこに古代の集落などが営まれていたことが分かりました。

本書が歴史研究の資料として末永く利用され、また、一般市民の方にも広く活用していただければ幸いです。

なお、発掘調査や整理作業に当たりまして、御指導、御協力を賜りました多くの方々に深甚の謝意を表します。

平成26年3月31日

春日市教育委員会
教育長 山本直俊

例 言

1. 本書は春日市教育委員会が平成 17 年度に実施した、個人専用住宅建設に伴う駿河 D 遺跡（2 次調査）の緊急発掘調査の報告書である。
2. 本遺跡の 1 次調査は、1997 年に駿河遺跡 B 地点（2 次調査）として調査を実施し、春日市埋蔵文化財年報 6 に掲載したものである。しかしながら、その後の試掘などの増加により、遺跡の範囲に見直しが迫られたため、駿河遺跡 B 地点（2 次調査）を駿河 D 遺跡（1 次調査）として切り離した。
3. 遺構の実測は井上義也が行い、製図は伊東ひかりが行った。
4. 遺物の実測は川端美由紀・造隼いづみ・島津屋幸子が行い、製図は足立紫穂が行った。
5. 掲載写真は遺構を井上が撮影し、遺物については岡紀久夫（フォトハウスOKA）が担当した。
6. 本書に使用した 2 万 5 千分の 1 地形図は国土地理院が 2005 年に発行した『福岡南部』である。
7. 本書の遺構実測図に用いた方位は磁北である。
8. 鉄器の保存処理については福岡市埋蔵文化財センターの御協力を得た。
9. 本書の執筆及び編集は、井上が行った。

本文目次

I	はじめに	1
1. 調査に至る経過	1	
2. 調査の組織	1	
II	位置と環境	2
III	調査の内容	5
1. 調査の概要	5	
2. 遺構	6	
(1) 土坑	6	
(2) 掘立柱建物跡	7	
(3) ピット	8	
3. 遺物	8	
(1) 土器	8	
(2) 鉄器	10	
IV	まとめ	11

図版目次

- 図版 1 (1) 調査区東半分全景（南から）
(2) 調査区西半分全景（南から）
- 図版 2 (1) 2号土坑全景（北西から）
(2) 2号土坑東西土層
(3) 2号土坑南北土層
(4) 2号土坑遺物出土状況（北西から）
- 図版 3 (1) 掘立柱建物跡全景（南東から）
(2) 掘立柱建物 P3
(3) 掘立柱建物 P6
(4) 掘立柱建物 P8
- 図版 4 (1) 出土土器
(2) 出土鉄器

挿図目次

第1図 駿河D遺跡周辺遺跡分布図（1/25,000）.....	3
第2図 駿河D遺跡位置図（1/2,500）	4
第3図 駿河D遺跡2次調査遺構配置図（1/80）	5
第4図 1号土坑実測図（1/20）.....	6
第5図 2号土坑実測図（1/30）.....	7
第6図 掘立柱建物跡実測図（1/60）.....	8
第7図 土器実測図（1/3）	9
第8図 鉄器実測図（1/2）	10

I はじめに

1. 調査に至る経過

平成 17 年 7 月 11 日に春日市春日原北町 5 丁目 28 番に個人専用住宅建設設計画の打診を受けた。当地は周知の埋蔵文化財包蔵地である駿河 D 遺跡に含まれ、道路を挟んだ南側では歴史時代の住居跡などが確認されていたため、同月 15 日に確認調査を実施した。重機により南北方向に幅 0.8 m、長さ 9 m のトレンチを掘削したところ、表土下 34cm の深さで遺構・遺物を確認した。

地権者と春日市教育委員会で埋蔵文化財に関する協議を行ったが、遺構検出面までが浅いことや地盤調査の結果、地盤改良が必要とされたために遺構に対する影響は避けがたい状況であった。このため、対象地 206.25m²のうち、住宅建築により遺構が影響を受ける北半部を中心に、110.26m²を市の単独事業として緊急発掘調査することになった。

発掘調査は、平成 17 年 8 月 22 日から 9 月 13 日まで行った。

2. 調査の組織

発掘作業および整理作業における調査体制は下記のとおりである。

発掘調査（平成 17 年度）

教育長	山本 直俊	教 育 長	山本 直俊
社会教育部長	鬼倉 芳丸	社会教育部長	中野 又善
文化財課長	結城 保雄	文化財課長	又吉 淳一
管理担当	総括係長 戸渡 隆	管理担当	総括係長 上野 志保
主 査	塙足 雅弘	主 任	伊藤かおり
主 任	松竹 典子	主 事	佐伯 廣宣
文化財担当	総括係長 丸山 康晴	文化財担当	課長補佐 中村 昇平
	技術主査 中村 昇平	主 査	吉田 佳広
	技術主査 吉田 佳広	主 査	森井千賀子
	技術主査 森井千賀子	主 任	井上 義也
	技術主任 境 靖紀	嘱 託	柳 智子
	技術主任 井上 義也	嘱 託	上原 あい
	嘱 託 坂田 邦彦	嘱 託	足立 紫穂
	嘱 託 河村 麻子	嘱 託	井上 剛

II 位置と環境

駿河 D 遺跡は、春日市春日原北町 5・6 丁目に所在する。

玄界灘に面した福岡平野は、那珂川と御笠川によって形成された沖積平野である。春日市は、この平野の南部にあり、福岡市の南部に接する。西部には諸岡川、東部には牛頸川が流れ、共に上述した御笠川へと合流する。また、中央部には南方の牛頸山系から派生した春日丘陵が存在する。

現在、春日市内において 151 の遺跡を確認している。旧石器時代の遺跡は 20 を越えるが、文化層として捉えることができたのは西部の門田遺跡のみである。縄文時代の遺跡も市域の各所で落穴状遺構や土器などが出土するが、西部での例が多い。門田遺跡では最古旧とされる爪形文土器、原遺跡などでは集積遺構、柏田遺跡では後期の住居跡が検出された。

弥生時代の遺跡は、福岡平野で数多く確認されており、中国の史書に記された「奴国」の故地であることがほぼ定説となっている。春日市については、早・前期の遺跡も伯玄社遺跡、平若 A 遺跡などで確認されるが、中期前半以降は春日丘陵北部周辺に広がる須玖遺跡群で集落や墓地が増加する。須玖遺跡群は福岡平野最大級の遺跡群で、弥生時代中期末の厚葬墓や青銅器生産に関連する遺構・遺物の質や量が他を圧倒することから、奴国の中心地と考えられる。

古墳時代には、須玖遺跡群内において集落は確認されるが、弥生時代のそれと違い規模が縮小する。反面、丘陵西側に広がる台地には集落と共に前～後期の前方後円墳が複数造営される。また、市南部には後期の群集墳や、牛頸窯跡群の一角を占める須恵器窯が古代まで操業される。

古代の遺跡も市域には点在するが、大土居・天神山に確認される小水城、先ノ原遺跡、春日公園遺跡で検出された官道跡、寺院に供給される瓦を焼いたウトグチ瓦窯跡などの存在が特筆される。中世は中白水遺跡にある上白水館跡が調査されており、今後、同種の遺構は須玖地区や岡本地区で確認される可能性があり、下白水北では文献に記された天浦城に関連する遺構が検出される可能性がある。また、ウトグチ C 遺跡、整理池遺跡、寺屋敷 A 遺跡では、墳墓も確認されている。

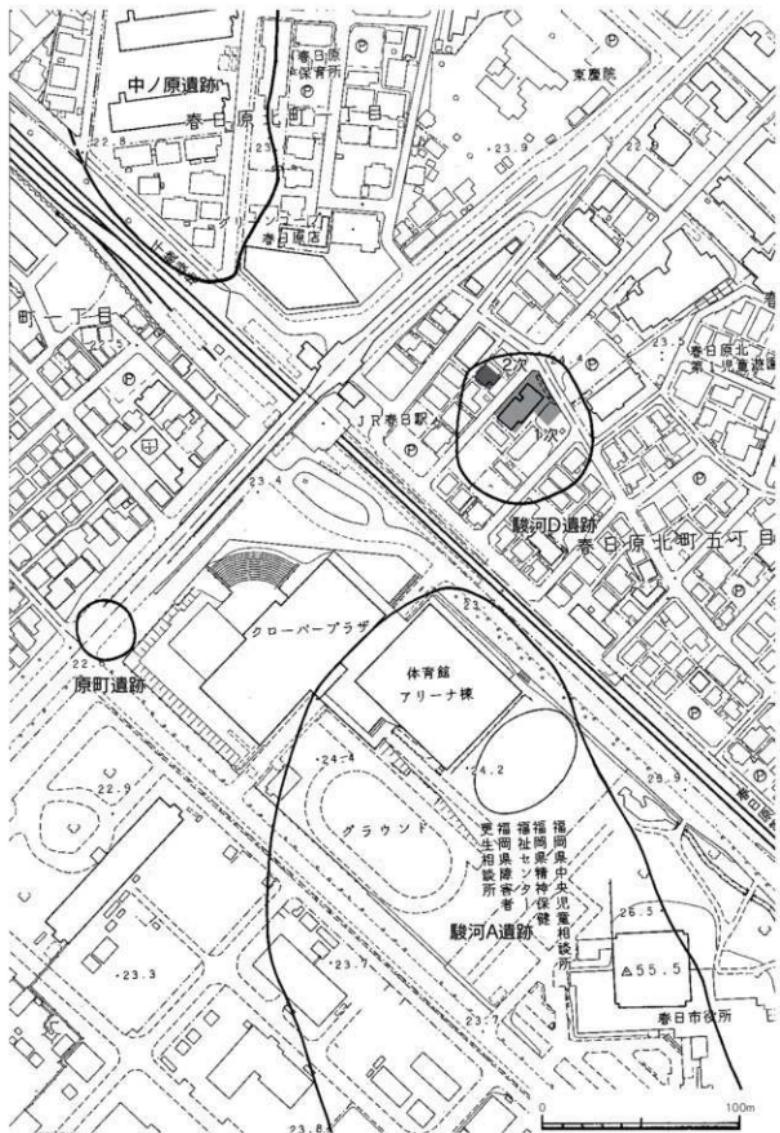
駿河 D 遺跡は市の東部に位置する。現在の地形にはほとんど高低差を見ることはできないが、試掘調査の成果や古地図を見ると当地周辺には起伏があり、微高地に遺跡が確認されている。駿河 D 遺跡の南西に接する駿河 A 遺跡では弥生時代中～後期の大規模な集落が調査されており、奴国を支えた集団の居住域であったと推測される。また、200 m 西側の原町遺跡は銅戈 48 本の一括埋納遺跡である。

このように駿河 D 遺跡の周辺には目立った弥生時代の 2 つの遺跡があるが、その他の中ノ原遺跡、駿河 B・C・E 遺跡、原ノ口遺跡では弥生時代の遺構はほとんどなく、7～8 世紀の住居、掘立柱建物、土坑、溝などが主体である。



1 駿河D遺跡	2 三筑遺跡	3 仲島遺跡	4 須玖遺跡群	5 下大荒遺跡
6 南八幡遺跡	7 麦野C遺跡	8 大荒遺跡	9 雜賀隈遺跡	10 原町遺跡
11 駿河A遺跡	12 駿河B遺跡	13 駿河E遺跡	14 先ノ原遺跡	15 小倉水城跡
16 前ノ原遺跡	17 天神山水城跡	18 池ノ内C遺跡	19 池ノ内B遺跡	20 大土居水城跡
21 小倉新池遺跡	22 大牟田池窯跡	23 惣利1号窯跡	24 春日水城跡	25 惣利遺跡
26 惣利北遺跡	27 惣利西遺跡	28 惣利東遺跡	29 向谷北遺跡	30 向谷西遺跡
31 向谷遺跡	32 大牟田遺跡	33 楠ノ木遺跡	34 惣利古墳	35 円入遺跡

第1図 駿河D遺跡周辺遺跡分布図(1/25,000)



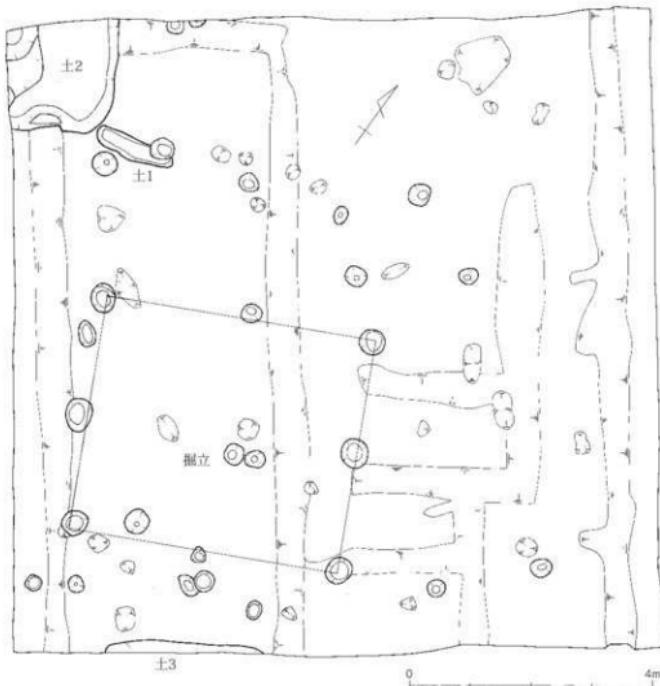
第2図 駿河D遺跡位置図(1/2,500)

III 調査の内容

1. 調査の概要

発掘調査の対象としたのは、対象地の北半部の個人専用住宅建築が予定された部分である。地表下35cm前後で遺構面には達したが、発掘対象地のすべてを一度に調査することは、土置き場の都合上難しく、東西二分割して調査した。

重機を使用し表土を除去すると黒褐色を呈する溝状の掘り込みを検出した。当初は遺構の可能性も考えたが、土の締りが弱く、ブロックやガラスなどが混入しており、調査前に存在した建物の基礎などの掘り込みと分かった。これらとは別に土坑やピットが検出され、ピットの中には掘立柱建物の柱穴になるものも含まれる。土坑は小形の住居跡の可能性を持つものも含まれるが、調査区外にまで延びており完掘できていないため、今回は土坑として報告した。



第3図 鶴河D道路2次調査遺構配置図(1/80)

なお、出土する遺物が少数のため各遺構の時期を特定することは難しいが、近隣の状況から考えて、7・8世紀の跡と推測される。

平成17年9月13日までに発掘調査、借用器材の返却などを行い、調査を終了した。

2. 遺構

(1) 土坑

調査区西部に3基の土坑を検出した。2・3号土坑については一部を検出したのみであり、春日市埋蔵文化財年報14掲載時には住居としているが、今回の報告では土坑としておく。

1号土坑（第4図）

1号土坑は調査区西隅部にあり、長さ1.34m、幅0.35mの構状を呈する遺構。底面は西側に向かい緩やかに傾斜し、最深部で深さ7cmと浅い。北東部はピットに切られる。

遺物は、土師器の壺片や須恵器口縁部小片が出土したが、土師器のみ図示した。

2号土坑（図版2、第5図）

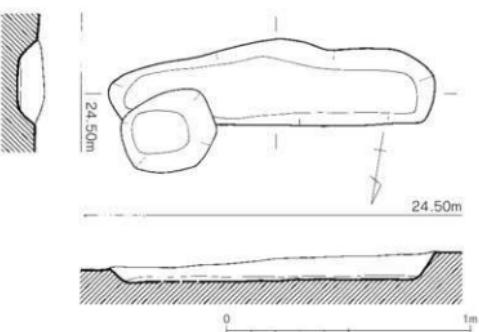
調査区西隅に南北1.9m、東西1.8m程度を確認したのみで、大部分は調査区外へと広がる。東側は1号土坑と近接する。検出したプランから隅丸方形ないしは隅丸長方形の平面形が考えられ、南東壁面には段を持つ。底面は水平ではなく、中央に向かい緩やかに下がり、南西部で段をなし下がる。最深部の深さは検出面から54cm程度。完掘できなかったため、詳細は明らかではないが、床面の形状や、柱穴になるようなピットも確認できなかったので、土坑として報告しておく。

出土遺物としては、土師器、製塙土器があり、底面から浮いた状態で土師器、須恵器と鉄器が出土した。

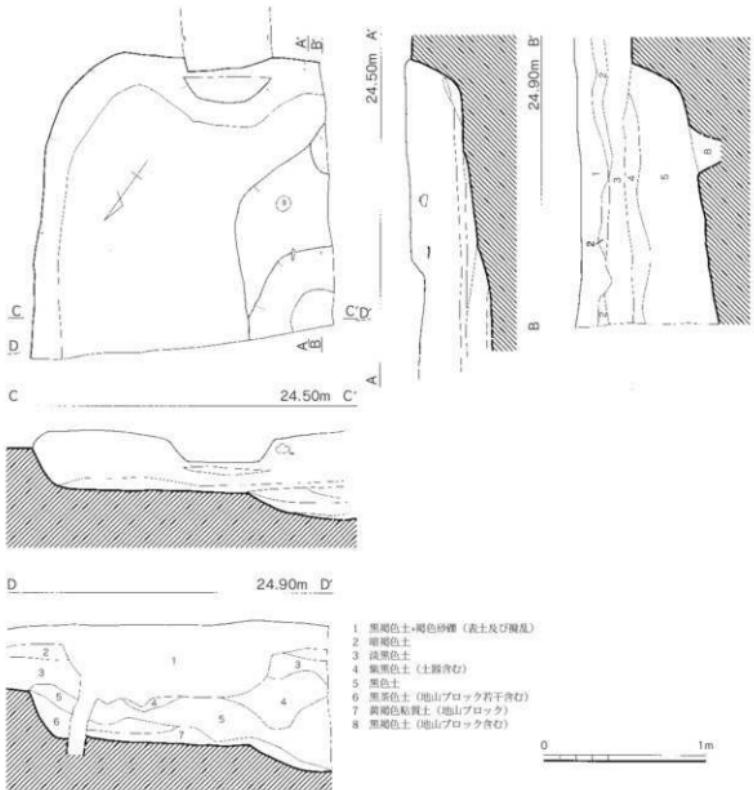
3号土坑

調査区南壁に2.6m×0.2mを検出したが、遺構の大半は調査区の南側に延びる。拡張が不可能であったため、深さや規模については不明である。平面形の一辺が直線的なため小型の住居跡の可能性もある。

土師器と考えられる小片が出たが、図化できるものはない。



第4図 1号土坑実測図(1/20)

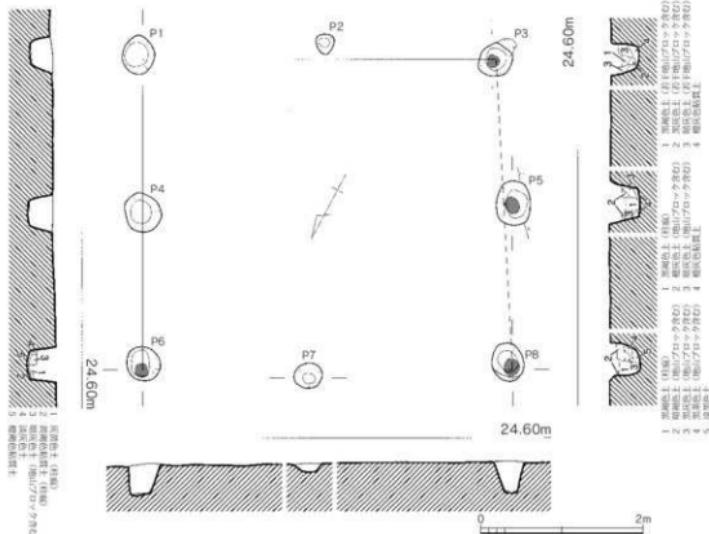


第5図 2号土坑実測図(1/30)

(2) 掘立柱建物跡 (図版3、第6図)

調査区の中央から南西部にかけて掘立柱建物跡1棟を検出した。春日市埋蔵文化財年報14では、1間×2間の建物と報告したが、再検討の結果、2間×2間の8本柱の建物とする。桁行4.60m、梁間3.82mで、梁行き方向はN-62°-Eを示す。柱穴の規模は、P 2がやや歪な形で直径22cm程度、深さ6cm、P 7が直径32cm程度、深さ9cmと小ぶりで、その他のピットは、長軸が40～50cm程度の梢円形をなし、深さ35cm前後を測る。P 2・7の規模が小ぶりなため、補助的な柱であった可能性がある。

なお、P 6から土器片2点が出土するが、小片のため図示し得るものではない。



(3) ピット

先述した掘立柱建物の柱穴の他は、掘立柱建物跡の柱穴になるようなピットはない。直径が30cm程度のものが目立ち、密度は薄い。

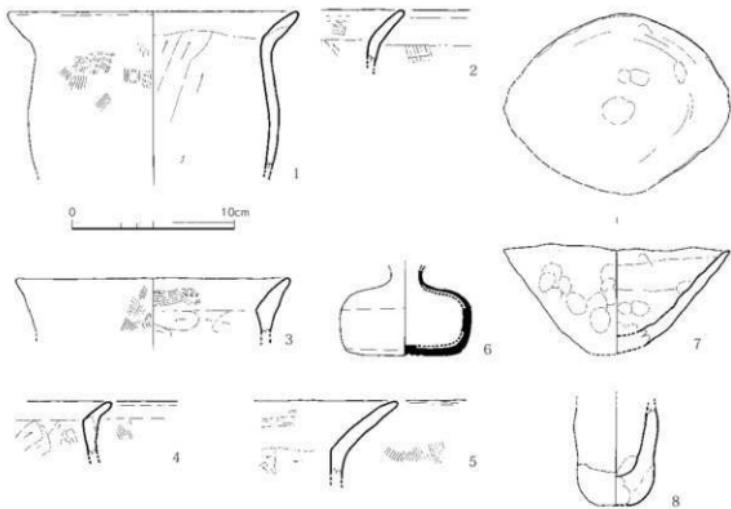
土器の小片が出土したピットも僅かにあるが、時期が特定できるような個体はなかった。

3. 遺 物

(1) 土 器 (図版4(1)、第7図)

1号土坑出土土器 (1・2)

1・2はやや小型の甕。1は口径17.9cmに反転復元を行った資料。磨滅するが、外面はハケ目、内面にはヘラケズリを施す。色調は内外面共に赤褐色、胎土は粗砂粒を多く含み、焼成は良好。2は甕の口縁部片。口縁部はヨコナデで仕上げるが、内面にはヨコハケが残存する。胴部の調整は、外面はハケ目、内面にはヘラケズリを施す。色調は淡茶褐色で、胎土は砂粒を含み、焼成は良好。



第7図 土器実測図(1/3)

2号土坑出土土器(3~8)

3~5は土師器壺の口縁部。3は口径16.9cmに復元できる資料で、口縁部が短く外傾するもの。調整は、外面はハケ目、内面は口縁部がヨコハケ、胴部はケズリを施す。色調は外面が淡赤褐色で、内面が淡黄褐色。胎土は粗・細砂粒が目立ち、焼成は良好。4も口縁部が外傾する資料で、調整は、外面はハケ目、内面にはヘラケズリを施す。色調は、外面が赤褐色で、内面は淡褐~黒褐色。胎土は砂粒を含み、焼成は良好。5は壺の大きく外傾する口縁部の破片資料。調整は、外面にはハケ目、内面は口縁部にヨコハケ、胴部はヘラケズリ。色調は、外面は淡褐色で、内面は淡茶褐色。胎土は砂粒を含み、焼成は良好。

6は須恵器の平底瓶で口縁部のみを欠く。底径7.1cm、残器高5.3cmを測る。調整はヨコナデで仕上げ、外底部はヘラ切り後にナデを施す。色調は淡灰色を呈し、胎土は砂粒をわずかに含む。焼成は良好。

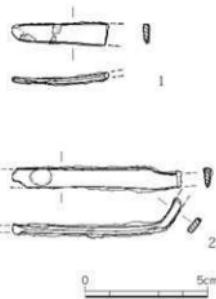
7・8は土師質の製塙土器。7は逆円錐形を呈する焼塙土器。口径は長軸14.0cm、短軸11.6cm、器高6.8cmに復元した。調整は内外面共にナデと指押さえで、内面には布目はない。外面は被熱のためアバタ状をなす部分がある。二次焼成によるためか、色調は、外面は黄灰色で還元された感があり、内面は赤褐色を呈する。胎土は粗・細砂粒がやや目立つ。焼成は良好。8は円筒形を呈する焼塙土器の底部で、六連式土器と称されるもの。調整は、外面は磨滅が著しく、内面にはナデや指押さえを施すが、布目はない。色調は赤褐色、胎土は粗・細砂粒が目立つ。焼成は良好。

(2) 鉄 器 (図版 4(2)、第 8 図)

2号土坑からは2点の鉄器が出土した。2については、出土地点を記録することができた。床面から浮いた状態であるため、2号土坑に伴うものかは断定できない。この2点は刀子であり、接合しないが同一個体と思われる。

1は切先部で、残存長 4.0cm、幅 0.9cm、厚さ 0.2cm を測る。中ほどで、緩やかに曲がる。

2は残存長が 6.9cm、幅 0.9cm、厚さ 0.25cm の資料で、関部は背部側に段を持つ。茎が曲がるが、人為的なものであろう。



第 8 図 鉄器実測図 (1/2)

IV まとめ

駿河D遺跡は春日市西部の春日原北町で確認された遺跡である。現在の春日原北町は住宅が密集しており、さほど地形の起伏を感じることはないが、これは、造成によるものであり、戦前までは地形の起伏があり、当遺跡の東にある龍神池も今より大きなものであった。このため、試掘調査でも谷部を埋めた地点や高まりを削った地点が明らかになっており、駿河D遺跡の範囲を確定しづらい。

2次調査は、現状の駿河D遺跡の北端部で行った調査で、報告したように狭小な調査であったものの土坑3基、掘立柱建物跡1棟とピットを検出した。

出土した土器が少なく、床面から浮いたものも多いため、各遺構の時期を確定しがたい。道路を挟んで南に位置する1次調査では、8世紀の住居跡や土坑が確認されており、2次調査から出土する土器とも大差はない。このため2次調査で確認した遺跡は、1次調査から続く8世紀の集落跡と判断される。

1号土坑は、溝状の遺構で性格などは明らかではない。2・3号土坑は住居跡の可能性があるが、一部の調査であったために今回は土坑として報告した。2号土坑は、先述したように床面が水平でないために住居としては報告しなかったが、簡易的な建物になる可能性は十分にある。当調査で最も遺物が出土し、上層からではあるが、土師器壺片と共に口縁部のみを欠く須恵器の平底瓶や鉄刀子が出士した。さらに製塙土器が出土したことは注目すべき点である。

掘立柱建物は、疑問も残るが、2間×2間の8本柱の建物として報告した。ただし、P2・7はその他の柱穴に比べ規模が小さいため、補助的な柱である可能性がある。時期の分かるような土器は出土していないが、8世紀のものか。

以上のように遺跡の概要を述べてきた。遺構の分布状況は、北東部の密度が低く、試掘調査の成果も合せて考えれば、北東側に遺跡が延びることは考えられない。一方、西部から南部にかけては遺構が集中するため集落が延びる可能性が高い。2次調査地の西側の試掘調査では、地山が削平を受けていることが明らかになっており、本来は8世紀の住居跡などが存在したと推察できる。ただし、その範囲は広くなく、遺跡が所在した微高地自体が小規模なものであったと判断できる。

当遺跡は調査の事例が少なく、遺跡の詳細については明らかではないが、製塙土器が出土することは興味深い。北側200mには同時期の集落である中ノ原遺跡がある。駿河D遺跡と中ノ原遺跡との関係性など今後の当地域での調査が期待される。

図 版



(1) 調査区東半分全景（南から）



(2) 調査区西半分全景（南から）



(1)2号土坑全景(北西から)



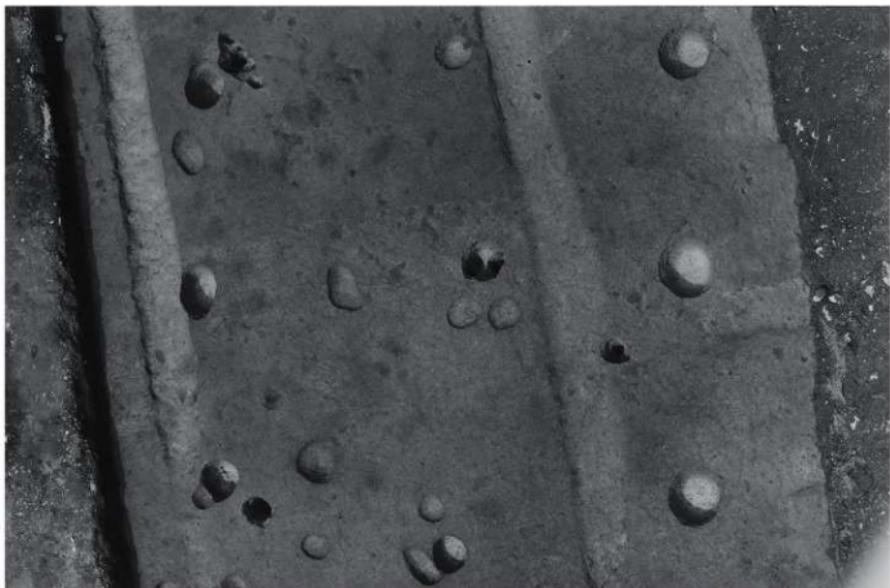
(2)2号土坑東西土層



(3)2号土坑南北土層



(4)2号土坑遺物出土状況(北西から)



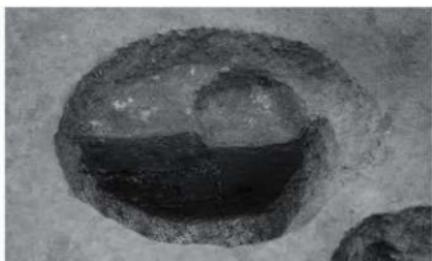
(1) 掘立柱建物跡全景（南東から）



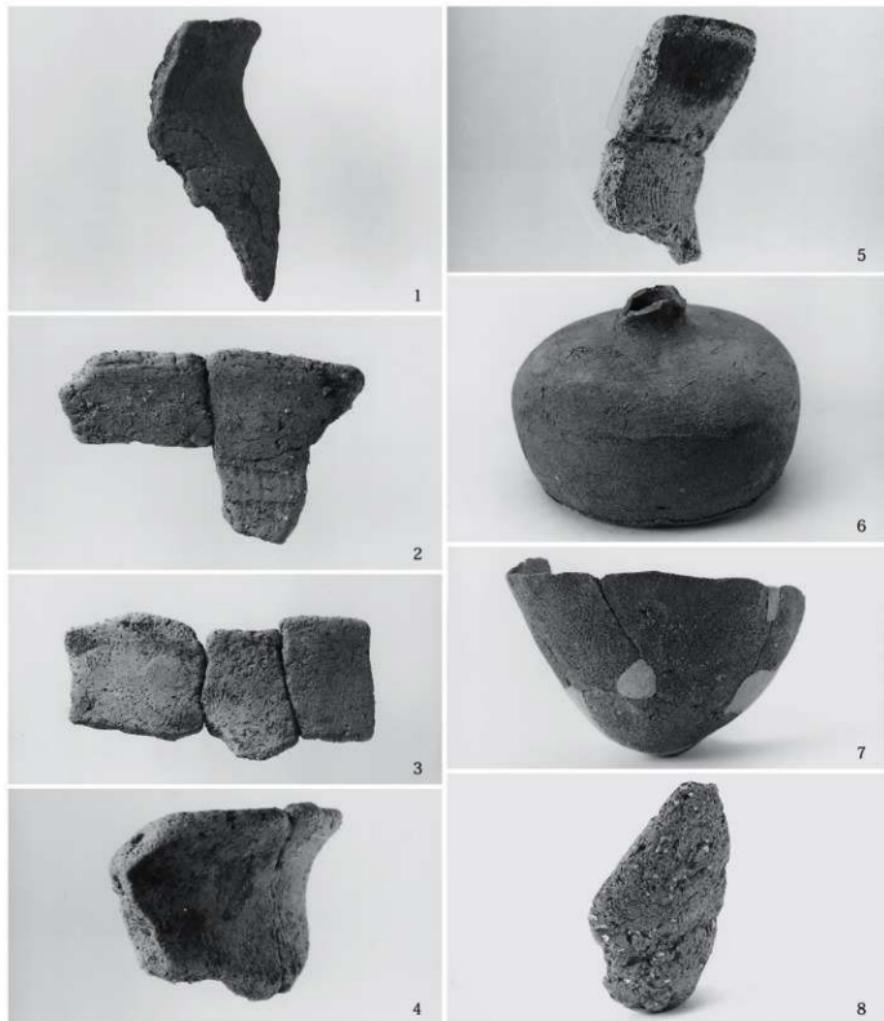
(2) 掘立柱建物 P3



(3) 掘立柱建物 P6



(4) 掘立柱建物 P8



(1) 出土土器 1号土坑(1・2) 2号土坑(3~8)



(2) 出土鉄器 2号土坑(1・2)

報 告 書 抄 錄

駿河 D 遺跡

— 2 次 調査 —

春日市文化財調査報告書

第71集

発行日 平成 26 年 3 月 31 日

発 行 春日市教育委員会
福岡県春日市原町 3 丁目 1 番地 5

印 刷 大道印刷 株式会社
福岡県春日市日の出町 6 丁目 23

